

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	MX10	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：MX10

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5-1/4** インチ

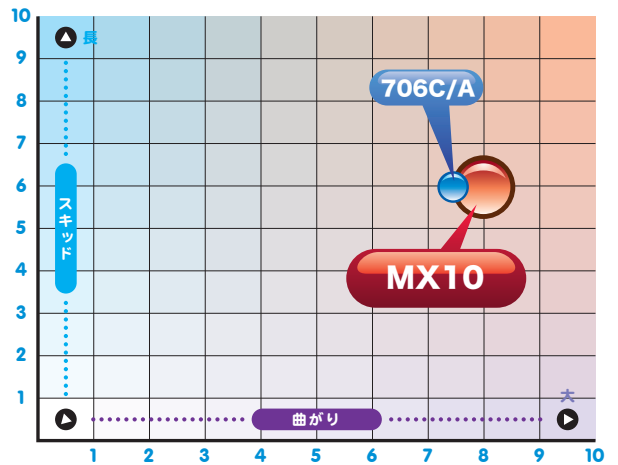
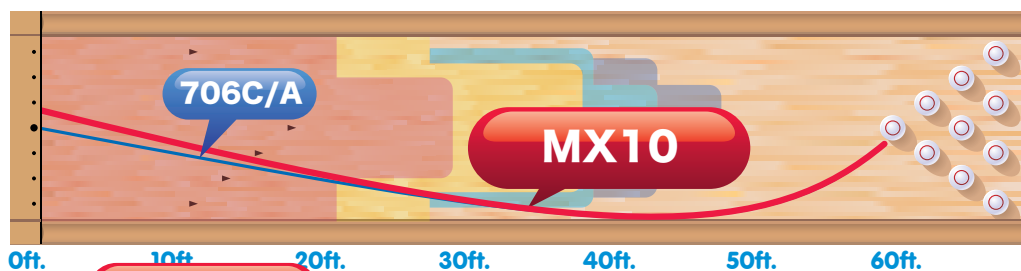
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：706C/A

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

TRACK社ナンバーシステムから変わり、Lx16に続く第2弾のMx10の発売です。

Lx16の発売以降、新たな指標としてTRACK社ではLow LEV、Mid LEV、High LEVとボウラータイプ別の表現になりましたが、Low LEV=回転数が少ない方向けという意味ではなく、「L」で始まる表記はキャッチが強めにできる傾向であるため、よりオイルがあるコンディション向きであるということです。「H」で始まる表記は薄めのオイルに対応できるコンディション向きです。ですので回転数の多い方は「L」モデルを使用できないとか、「H」モデルは回転数が少ない方は使用できないということではありません。そのためこの「M」モデルはパフォーマンス的に中間に位置し、コンディションによるボールの使い分けをするための一つの指標になる分布のボールと言えると思います。

Mxというモデルを完成する為にMR-6 Hybrid Reactiveという、やや強めのカバーストックをHybrid化させました。キャッチは強めに残しながら走りを重視させ、ドライゾーンで一気にグリップ力を放出する。心臓部にあるFaceコアとの連動は「Mx」(Medium Xtreme)と表現できるほど、バックエンドのシャープな動きが第一印象に残ります。このようなバックエンドのシャープさは長年日本のボウラーが好むリアクション形態ですので、動きもラインアジャストも受け入れ易いのではないかと思います。バックエンドでのシャープさが出て戻すラインも可能にし、ミディアムな領域で先でのシャープなリアクションを求めている方には絶好の性能ではないかと思います。

新しい表記に変わり、カバーストックも一新されたTRACK社の新しいモデルを是非お試しください。

特記事項

新しく開発されたMR-6 ReactiveのHybridバージョンはキャッチの中にもスキッド感があり、ドライゾーンでのグリップを強く感じるカバーストックです。先で動きを求める方はこのボールがオススメです。